2，6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム　$C_{12}H_6Cl_2NNaO_2$〔特級〕

2，6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液　2，6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム0.1g（0.05～0.14g）に水100mLを加え、加温した後、ろ過する。3日以内に使用する。

2，6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム試液、滴定用　炭酸水素ナトリウム0.042g（0.0415～0.0424g）に水50mLを加えて溶かし、さらに、2，6-ジクロルフェノールインドフェノールナトリウム0.05g（0.045～0.054g）を溶かし、水を加えて200mLとし、ろ過する。用時調製する。

ジクロロメタン　CH_2Cl_2〔特級〕

次酢酸鉛試液　酢酸鉛3g（2.5～3.4g）及び一酸化鉛1g（0.5～1.4g）に水0.5mLを加え、すり混ぜ、得られた類黄色の混和物をビーカーに入れ、時計皿で覆い、水浴上で加熱し、均等の白色又は帯赤白色になったとき、さらに、熱湯9.5mLを少量ずつ加え、再び時計皿で覆い、放置した後、上澄液を傾斜してとり、水を加えてその比重を1.23～1.24（15℃）に調整する。密栓して保存する。

四シュウ酸カリウム、pH測定用　$KH_3(C_2O_4)_2\cdot 2H_2O$〔pH測定用〕

次硝酸ビスマス　〔日局〕

L-シスチン　$HOOC(NH_2)CHCH_2SSCH_2CH(NH_2)COOH$〔特級〕

L-システイン塩酸塩一水和物　$HSCH_2CH(NH_2)COOH\cdot HCl\cdot H_2O$〔特級〕

ジチゾン　$C_6H_5NHNHCSN:NC_6H_5$〔ジチゾン（ジフェニルチオカルバゾン）、特級〕

ジチゾン試液　ジチゾン25mg（24.5～25.4mg）を量り、エタノール100mLを加えて溶かす。用時調製する。

3，5-ジニトロ塩化ベンゾイル　$(NO_2)_2C_6H_3COCl$〔特級〕

2，4-ジニトロクロルベンゼン　$C_6H_3(NO_2)_2Cl$〔特級〕

2，4-ジニトロクロルベンゼン試液　2，4-ジニトロクロルベンゼン0.01g（0.005～0.014g）を量り、残留農薬試験用ベンゼンを加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更に残留農薬試験用ベンゼンを標線まで加えて100mLとする。この溶液1mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、残留農薬試験用ベンゼンを標線まで加えて100mLとする。

2，4-ジニトロクロルベンゼン試液、希　2，4-ジニトロクロルベンゼン試液10mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、残留農薬試験用ベンゼンを標線まで加えて100mLとする。

3，5-ジニトロサリチル酸　$(NO_2)_2C_6H_2(OH)COOH$　僅かに薄い黄色～薄い黄褐色の結晶性粉末又は粉末で、エタノール及びアセトンに溶けやすく、水に溶けにくい。

溶状　本品1g（0.5～1.4g）にエタノール20mLを加えて溶かすとき、溶液は、ほとんど透明である。

融点　171～175℃

確認試験　本品1mg（0.5～1.4mg）を量り、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により赤外吸収スペクトルを測定するとき、波数3,100cm^{-1}、1,680cm^{-1}、1,600cm^{-1}、1,540cm^{-1}、1,340cm^{-1}、1,220cm^{-1}、1,160cm^{-1}、1,090cm^{-1}、900cm^{-1}、810cm^{-1}、740cm^{-1}及び710cm^{-1}付近に主な吸収を認める。

含量　98.0%以上

定量法　本品0.4gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、エタノール10mL及び水20mLを加え、0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（電位差滴定法）。

0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液1mL＝0.02281g $(NO_2)_2C_6H_2(OH)COOH$

3，5-ジニトロサリチル酸試液　3，5-ジニトロサリチル酸20.0g（19.95～20.04g）に水800mLを加え、懸濁し、かき混ぜながら酵素力試験用水酸化ナトリウム試液300mLを少量ずつ加える。これを48℃以下の水浴中で加温し、溶液が透明になるまでかき混ぜる。これに、酒石酸カリウムナトリウム600g（599.5～600.4g）を少量ずつ加え、溶液が透明になるまでかき混ぜる。必要ならば、これを48℃以下の水浴中で加温し、かき混ぜる。さらに、水を加えて2,000mLとし、ガラスろ過器（G3）でろ過し、遮光した容器に保存する。180日以内に使用する。

α，α′-ジピリジル　$C_{10}H_8N_2$〔特級〕

α，α′-ジピリジル試液　α，α′-ジピリジル0.25g（0.245～0.254g）にエタノールを加えて溶かし、100mLとする。用時調製する。

ジフェニルアミン　$(C_6H_5)_2NH$〔特級〕

ジフェニルアミン試液　ジフェニルアミン1g（0.5～1.4g）に硫酸100mLを加えて溶かす。無色の溶液を用いる。

ジフェニルカルバゾン　$C_6H_5NHNHCON:NC_6H_5$〔特級〕

ジフェニルカルバゾン試液　ジフェニルカルバゾン1g（0.5～1.4g）にエタノールを加えて溶かし、1,000mLとする。

ジフェニルチオカルバゾン　$C_6H_5NHNHCSN:NC_6H_5$〔ジチゾン、特級〕

2，6-ジブロムキノンクロルイミド　$O:C_6H_2Br_2:NCl$〔特級〕

ジベンゾイルチアミン定量用臭化シアン試液　臭化シアン試液、ジベンゾイルチアミン定量用の項に定める。

p-ジメチルアミノシンナムアルデヒド　$C_{11}H_{13}NO$　橙色の結晶又は結晶性の粉末で、特異な臭いがある。希塩酸に溶けやすく、エタノール又はエーテルに溶けにくく、水にほとんど溶けない。

溶状　本品0.2g（0.15～0.24g）にエタノール20mLを加えて溶かすとき、溶液は、澄明である。

融点　140～142℃

乾燥減量　0.5%以下（1g，105℃，2時間）

強熱残分　0.10%以下（1g）

窒素含量　7.8～8.1%（105℃，2時間，乾燥した後，窒素定量法によるものとする。）

p-ジメチルアミノシンナムアルデヒド試液　*p*-ジメチルアミノシンナムアルデヒドのエタノール溶液（1→2,000）10mLに、用時、氷酢酸1mLを加える。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド　$(CH_3)_2N\cdot C_6H_4CHO$〔特級〕

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド・エタノール硫酸試液　*p*-ジメチルアミノベンズアルデヒド1.5g（1.45～1.54g）に約50mLの無水エタノールを加えて溶かした後、硫酸0.5mLを加えて無水エタノールで100mLとする。用時調製する。

p-ジメチルアミノベンズアルデヒド・塩化第二鉄試液　*p*-ジメチルアミノベンズアルデヒド125mg（124.5～125.4mg）を硫酸65mL及び水35mLの冷混液に溶かし、塩化第二鉄試液0.05mLを加える。調製した後7日以内に用いる。

ジメチルスルホキシド　CH_3SOCH_3〔特級〕

ジメチルホルムアミド　$HCON(CH_3)_2$〔N，N-ジメチルホルムアミド、特級〕

弱酸性陽イオン交換樹脂　メタアクリル酸ジビニルベンゼン共重合体を液体クロマトグラフ用に製造した上質のものとする。

弱酸性陽イオン交換樹脂カラム　弱酸性陽イオン交換樹脂を0.5mol/L硫酸試液中に分散させ、3時間放置する。洗液が中性になるまで水で洗った後、かき混ぜながらpHを7～8に保つように水酸化リチウムを加える。pHが安定した後、一夜放置し、水で5回以上洗い、リン酸溶液（1→25）でpHを7.0に調整し、保存する。用時、内径1cmのカラムに高さ10cmとなるよう充塡し、試料溶液を負荷する直前に水25mL以上で洗う。

弱石炭酸フクシン液　塩基性フクシン試液10mLをフェノール溶液（5→100）100mLに加え、さらに、水で10～20倍に希釈する。用時調製する。